

研究代表者 所属・職：健康科学部・教授

氏 名：白石 成明

研究課題名：要介護高齢者に対する ADL・IADL の維持・改善に有効なリハビリテーション介入

研究の概要

急速な高齢化が進む我が国では、日常生活に支援や介護を要する要支援・要介護高齢者数の増加は著しく 2016 年末の要支援・要介護高齢者数は 618.7 万人となっている。要介護高齢者では既に日常生活活動(ADL)障害を有し、自立した高齢者と比較して短期間で状態が悪化する危険性が高い状態となっている。本研究ではこれらの要介護高齢者の心身機能低下に関わる要因を観察研究により明らかにする事である。

達成状況・成果内容

【研究成果】

本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で四肢周計、骨密度、心臓血管指数、IADL、ソーシャルキャピタル調査などいくつかの項目調査が実施できなかった。

1. 調査期間 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

2. 調査地 三重県四日市市 愛知県半田市

3. 調査対象 上記所在の通所介護施設 2 カ所

4. 研究デザイン 観察研究

5. 取得データ

●背景：性別，年齢，生活状況，喫煙，飲酒，併存疾患，介護サービス利用状況

●食事・栄養調査：Food Frequency Questionnaires, Mini Nutritional Assessment

●QOL：EuroQol 5 Dimension

●認知：Mini-Mental state Examination

●体組成：骨格筋量，体脂肪量

●筋力・身体機能：握力，Short Physical performance Battery,

●精神機能：Geriatric Depression Scale-15

●身体活動：国際標準化身体活動質問票，活動量

6. 研究成果

・2020 年度は上記項目について通所介護施設を利用した 171 名に調査を実施した。対象者の平均年齢は 81.5 ± 7.0 歳、内訳は男性 37 名、女性 134 名であった。

・本研究は 2017 年度から継続して実施しており、今年度はフレイル高齢者の座位行動に着目した研究に取り組み、①座位行動時間と動脈伸展性との関連②座位行動時間とサルコペニアとの関連について明らかにした。通所介護施設の利用者は、日常生活に見守りや介護が必要な高齢者が多い。リハビリテーションの介入では活動への介入に着目されているが、これらの高齢者では座位行動時間の短縮の取り組みを必要であると考えられた。